



# 永明地区

# 地域づくり推進事業ニュース

編集発行

永明地区地域づくり協議会

事務局：前橋市永明公民館内  
〒379-2121 前橋市小屋原町 1857-3

電話 027-266-5775  
FAX 027-266-9312

## 永明の歴史を知る

### 健康ウォーキング大会を開催

昨年12月12日(日)に、永明地区地域づくり協議会(深谷茂会長)主催の『永明の歴史を知る健康ウォーキング大会』(世代間交流部会健康部会合同企画)が実施されました。



深谷会長のあいさつ、先立ちに出発

天気は快晴だったものの北西からの季節風が強く吹く冷たい日曜日、安全係員を含め参加者205人が師走の永明路(えいめいじ)を楽しみ歩きまし

た。205人は、午前9時から三班に分かれ、15分おきに、集合地点である永明公民館をスタートしました。一行は、最初の目的地である、



205人でテクテクと

下長磯町の稲荷神社をめざしました。



稲荷神社では、下長磯操翁式三番叟保存会の小山会長より、三番叟について、毎年曜日に関係なく4月15

日に行われることや、全国的に珍しい二人遣いであること、神事芸能として永く伝えてきたことなどの説明を受けました。



実際に使われている三番様のレプリカ

三番様の人形は230年前に製作され、経年劣化が著しいため、実際の祭事では、レプリカが使用されて

いるとのこと。なお、お祭りの最後、面箱くぐりをする、一年間健康で過ごせるそうです。

下長磯町の稲荷神社をあとにして、下長磯のお上人様(夫婦榎の大木)を目指しました。



樹齢四百年とも五百年ともいわれる榎にまつわる由緒・由来について



米山榮一さんから説明を聴きました。

夫婦榎の大木をあとにした一行は、平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した歴史上の人物・源義経(みなものよしのね)の伝説が残る上長磯町の「義経の腰掛石」を訪ねました。

国道50号の観音橋西橋詰に位置するこの史跡について、平成20年度に発行された永明地区文化財マップを監修した、井田英雄先生から説明を伺いました。



参加者が入る聞き入る井田先生の話

話の中で、『観音橋(かんのんばし)』の読み方について、

「橋」は、水が濁ることを嫌って、『ばし』と濁音では読まず、『はし』と読む。」と説明され、参加者は感心して聞き入っていました。

先生の話によると、利根川を渡って、六供から天川町を経て、天川大島へ上長磯へ女屋へ小島田へ今井へ二之宮へ向かう「東街道」があり、この街道に沿って、いくつかの義経伝説が残されており、その内一つが「義経の腰掛け石」の伝説であり、義経が奥州征伐に向かう途中、一時(ひととき)の休憩のために腰掛けたと伝えられています。



赤城山から見た「義経の腰掛け石」

この腰掛け石からは遥かに赤城山を正面に見ることができ

ます。ウォーキング大会当日も晴天に恵まれ、写真のように雄大な

赤城山を望むことができました。

およそ八百年以上の昔、義経一行がこのように美しい赤城山を見ていたのか想像すると、ロマンを感じます。

一行は最後の目的地である、上大島町の浄土院観音堂へ向かいました。



このお堂の中には、百体の観音像

が祭られ、毎月16日に地元「百番観音愛好会」の皆さんが中心となって、十六日念仏が奉納されているそうです。また、3月と7月の15日には天道念仏が行なわれているとのこと。



堂内の観音像

観音堂では、およそ10分間、地元の方から説明を聴きました。

紀年銘のある観音像は西暦

1761年と、今から約250年前に奉納されたものだと知り、文化財を守り伝えていく大切さを改めて知ることができました。

TON TON 汁でお出迎え 午前9時から順次スタートした各班は、下長磯町の稲荷神社(三番叟) 下長磯町のお上人様(夫婦檀の大木)

義経の腰掛石(上長磯町の義経伝説) 上大島町の浄土院観音堂と、約7kmのコースを歩き、最後の班が永明公民館にたどり着いたとき、時計の針はちょうど正午を指していました。

ウォーキングを楽しんだ参加者を永明地区食生活改善推進員会(興津正子代表)の皆さんが、心をこめて作った



皆さんが配る食改推のTON TON 汁

TON TON 汁でお出迎え。参加者は、多目的ホールに設置された食堂

で、主催者が用意したおにぎりや温かいTON TON

汁とで、疲れを癒しました。



参加者全員で美味しい昼食を楽しく

『永明の歴史を知る健康ウォーキング大会』の実施にあたり



交通安全を誘導する交通指導員さん

交通指導員、保健推進員、交通安全委員、生徒

涯学習奨励員連絡会、体育推進委員会の皆さんのご協力してくださいました。

各団体の皆さんのお陰で、大会を安全に行うことが出来ました。本当にありがとうございました。

このウォーキング大会で、永明地区の地域づくりの合言葉である、『健康で心をつ

なくまちづくり』に一歩近づいたように感じました。

地域づくりの究極的目標は、『地域における支え合いの強化』と『地域主体による課題解決の向上』です。

これらを達成するために、地域にお住まいの一人ひとりの理解と協力、そして参加が必要だと考え、自治会連合会をはじめとする各種団体や地域にお住まいの皆さんとの意見交換を活発に行い、目標に向かって活動を展開してゆきたいと考えております。



安全安心の標語 集まる

永明地区地域づくり協議会・安全安心部会では、永明地区地域づくり推進事業二ユース第2号(平成22年10月15日発行)において、防犯や交通安全、昨今、社会問題となっている高齢者を狙った犯罪や孤独死、子どもたちを取り巻く防犯活動など、"日常心がける安全安心"についての標語を募集した

ところ、293件の応募があり、安全安心に対する関心の高さをうかがうことができました。

入選30作品中、今号では小中学生が応募した標語の中から、優秀標語に選ばれた作品の中から何点かご紹介いたします。

あいさつ運動に関するもの  
出会ったら 気持ちをこめて  
あいさつを あいさつは 地域の輪を広げる あいさつは 心かげ  
あいさつを いつでもどこでも

交通安全・防犯に関するもの  
大丈夫 緩んだその時 事故のもと 守ります 交通ルールと 地域の目 気をつけて  
危険がいっぱい 暗い道  
人権に関するもの  
差別や暴力 こんな言葉をなくそうよ いじめをねやめるといえば 気持ちがいいよ 気づいたら 困っている人たすけよう

なお、優秀標語は『永明地区地域づくり推進事業二ユース』で順次、紹介していきます。



上長磯町公民館に掲げられた地域づくりの職旗